

# 参加者募集

## 労山カラコルム・サマーキャンプ2007

パキスタン スパンティーク (7027m)



スパンティーク峰(尾上弘司氏提供)

### 趣 旨

「ハイキングからヒマラヤまで」を合言葉に掲げて1960年の創立以来、実践に運動にと諸活動を展開してきた日本勤労者山岳連盟（労山）にとって、海外の高峰登山はその到達点の高さを示す指針のひとつです。労山における海外登山の黎明期となった1970年代、それが花開いて多くの7000m峰や6000m峰に初登頂するなどの成果を挙げた80年代を経て、90年代には8000m峰を目指す隊も目立ち始めました。これにはやはり1988年以来、海外委員会が主管して開講を続けてきた実践高所登山学校が高峰登山実行の気運を促し、かつ人材育成の面でも大きな寄与をなしたものと自負しているところです（2004年までの全25回で延べ162人の受講者を数えた）。

海外委員会ではこのほか、この分野でのよりいっそうの発展のため、1994年からは8000m峰への登山隊派遣にも取りかかりました。2005年までの12年間に世界の14の8000m峰のうち、シシャパンマ（中央峰8008m）、ダウラギリ1峰（8167m）、ローツェ（8516m）、チョモランマ（8848m）、ナンガパルバット（8125m）、ブロード・ピーク（8051m）、マナスル（8163m）、ガッシャーブルム2峰（8035m）、K2（8611m）、そしてガッシャーブルム1峰（8068m）と10座の8000m峰の登頂に成功してきましたが、これらの中核を担った隊員の多くも高所登山学校の出身者でした。

ただ、ここ数年は厳しさを増す労働環境からくる（特に若年層の）応募者の減少と海外委員会側も講師人材の減少という両面の要因から高所登山学校は休止してきましたが、2007年度はカラコルム・キャンプとして、スパンティーク峰を目指すことになりました。1992年に神奈川ヒマラヤ登山隊が16人全員登頂を果たして一躍有名になったこの山は、以来登りやすい7000m峰として外国隊も含めて毎年多くの登山隊を引きつける存在です。流程約40kmに及ぶ長大なチョゴルム氷河の源頭にそびえる同峰からは間近にマルビティンやライラ、ディランなどの7000m前後の山々、周辺にはラカポシ、トリヴォール、ディステギルサール、クンヤンチッシュなど8000m近い高峰がそびえて壮観です。遠くにはK2やナンガパルバットなどの巨峰も望め、世界の屋根の中での登山活動は忘れられない経験になることでしょう。

## 募 集 要 項

目標峰 パキスタン・カラコルム、チョゴルンマ氷河流域、スパンティック峰(7027m)

期 間 2007年7月23日～8月27日(36日間)。

募集人数 原則として5人以上。

参加資格 登山会員で、協調性のある身体健康な人(健康診断書 = 一般的なもので可 = 提出のこと)。登山技術・体力は日本の雪山の幕営縦走山行を危なげなく行動できる力があること。登山遭対基金10口加入のこと。

参加費用 65万円(5人以上参加の場合を想定するが、参加者の力量に応じて講師陣や高所ポーター数、装備の配置なども変わるので暫定額。また為替相場などでも変動あり)。参加費には、旅行代理店経費、日本～パキスタン間の往復航空運賃、現地交通費、都市滞在・食費、共同装備費、キャラバン中および高所食費、空港税、ビザ代、講師手当て・準備活動費、国内通信費などを含む。

応募締め切り 原則として2007年1月末日。

キャンセル条件 参加申し込みが受理された以後の参加取り止めについては、他の受講者の負担増抑制および講師確保の都合のため以下のようなキャンセル料を納めるものとする

出発3ヵ月前以降は20万円

同2ヵ月前以降は15万円。

同1ヵ月前以降は20万円。

直前キャンセルの場合は旅行社、航空会社へのキャンセル料金が加算されます。

(サマーキャンプが成立しなかった場合は必要経費を除いて全額返還)。

問い合わせ・申し込み先 日本勤労者山岳連盟・海外委員会 〒162 0814 東京都新宿区新小川町5 24

☎ 03 - 3260 - 6331

FAX 03 - 3235 - 4324

Eメール: [jwaf@jwaf.jp](mailto:jwaf@jwaf.jp)

